

一般プログラム初級Ⅰクラスにおける語彙ノートの使用の実際と今後

ー学生のアンケート結果にもとづいてー

夢田美有紀

長崎大学留学生センター発行

長崎大学留学生センター紀要

第17号 抜刷

2009年6月

一般コース初級Ⅰクラスにおける語彙ノート使用の実際と今後 －学生のアンケート結果にもとづいて－

夢田美有紀

キーワード：初級学習者、語彙学習

1. はじめに

日本における日本語学習の場合、入門期には文字、語彙、文法を平行して学習することが多い。文法を学習する際には語彙が、語彙を学ぶ際には文字が助けとなるため、文字を覚えていれば語彙が覚えやすくなり、語彙が理解できていれば文法の理解も早い。しかし、一方で学習の最初の段階で文字につまづくと語彙が覚えられず、語彙が覚えられないと文法の理解ができなくなる、というマイナスの関連を生んでしまう危うさも持っている。こうした入門期におけるリスクを避け、学習者への文字・語彙の負担を減らし、かつ教師が授業活動を円滑に進めるために、筆者は長崎大学一般コース初級Ⅰの学生のための語彙ノートを2005年度に作成した。これは一般コースの初級Ⅰで主教材として使っている『新日本語の基礎Ⅰ』で扱われる語彙を載せたものである。

一般コースを受講する学生は研究生、大学院生が主である。彼らは研究や専門の勉強・授業に多くの時間を必要としており、日本語の勉強にはあまり時間が割けないことが多い。結果として、日本語の授業時間内で文字、語彙、文法を覚えることになる。その日の授業で初めて語彙を知り、その時間に新出語彙を使って練習をするのは、こうした学生には負担が大きい。教師にとってはそうした学生を相手に授業を行うと、学生が語彙を覚えていないために導入や練習の前段階で時間をかけなければならず、導入や練習を行わせる時間が減ってしまい、文法項目の定着が不十分となる。このような学生・教師双方の負担を軽減するために作成した語彙ノートについて、夢田(2007)では筆者がコーディネーターになってから初級Ⅰを担当した教員に対してアンケート調査を行った。その結果、新出語彙の導入に時間が取られない、学生

に予習復習の習慣がついた、生活に即した語彙が提示されているため授業活動に使いやすい、などプラスの評価が多く得られた。また、担当教員には学期開始時に語彙ノートを渡すだけで、筆者から特に指示していなかったにもかかわらず、授業で使っている教員が多いことも分かった。

一方、学生へのアンケートは回答数が少なく、データとしては十分ではなかったため、この語彙ノートが学生の役に立っているのか、学生がどのように使っているのかは分からなかった。しかし、2008年度後期の学生へのアンケートはほぼ全員から回収できたことから、本稿ではこのアンケートと昨年度までに回収したアンケートを合わせて分析する。アンケートの分析と筆者の今までの語彙ノートの使い方から、語彙ノートをよりよいものにするにはどうすべきか考えたい。

2. 語彙ノートについて

2.1 内容

語彙ノートの前半はひらがな、カタカナ、それぞれの五十音図と行ごとの練習帳、教室用語、挨拶などの簡単な表現、数字の言い方をのせた。初版では文字はのせていなかったが、各教員がそれぞれに練習シートを配って練習させていたため、練習シートを配る手間の削減と練習内容の統一化のため、二版から入れた。教室用語、挨拶表現、数字については、初日に授業で扱ってもらい、その日から教師にも学生にも積極的に使ってもらうために、初版から入れていた。

後半は各課の新出語彙のうち、授業中の練習や日常生活でよく使うと思われるものをのせた。できるだけ媒介語を使わずにすむよう、絵で提示し、絵の下にひらがなカタカナを表記した。文字については、3課までは文字の学習が完了していないため、一部ローマ字でルビをふった。各課で必要だと考えた語彙のうち、絵にしにくい、または、なかったものについてはひらがなまたはカタカナと英語、中国語の訳を併記した。

最後に長崎中心部の地図と長崎の観光地、祭り、買い物、食べ物などの簡単な説明をのせた。これは2005年度に初級Ⅰを担当した教員からの要望によるもので、長崎に来たばかりの学生でどこに何があるのか分からない学生への情報提供と、練習で身近な語彙を使うことを目的としている。各項目の説明は25課までに学習する文型を使ったが、その文型を学ぶ前に見る可能

性もあるので、英訳ものせた。

2.2 使用の例

筆者が語彙ノートをもっと多く使ったのは導入段階である。予習をしてきていない学生に絵カードを見せ、言葉を与えても、絵を見てすぐに言えるようになるまでには時間がかかる。そのため、絵カードを見せる前に語彙ノートの該当ページを開けさせ、絵カードを見せながら新出語彙を適宜確認させることで、絵カードだけでの導入より短い時間で語彙の導入が行えた。

次に筆者がよく使ったのは練習段階である。動詞や形容詞が初めて提示される課では、その動詞や形容詞を覚えていなければ練習ができないため、語彙ノートの該当ページを見ながら活用や文作などの練習をさせた。課によっては、前に習った語彙を使う練習も行った。好き嫌いや休みの日に何をするかなどは、質問ができてても語彙が分からなければ答えられないので、その補助として、答えに使えるような語彙が出ている課のページを見ながら練習させた。語彙ノートを見ないで練習できるのが理想ではあるが、語彙ノートがあれば語彙を覚えていない学生でも授業活動についてこられる上、活動で使わせていくことで語彙の定着が図れると考えている。覚えている語彙が少ない場合は、限られた語彙でしか活動ができないが、語彙ノートを見ることで必要な語彙を使うことができ、答えに広がりが出ことも考えられる。

語彙ノートはその課の導入と練習で、新出語彙を使うのが苦にならないように作ったのであるが、他の課でも語彙が定着していないために練習ができない、という問題を避けるために使うことがあった。練習で他の課の語彙を使う場合は、当然ではあるが、前の課の語彙を使う。これは、新しい語彙ではないという心理的な負担を軽減することと、その課を習ったときには定着させられなかった語彙の定着を図ることも意図している。

以下に筆者が他の課の語彙を使った例をあげる。

名詞：L 9の好き嫌いでL 6の食べ物・飲み物、L 10の位置詞でL 2の物
動詞：L 14の～てくださいでL 6の動詞、他、～ています、～ないでくだ

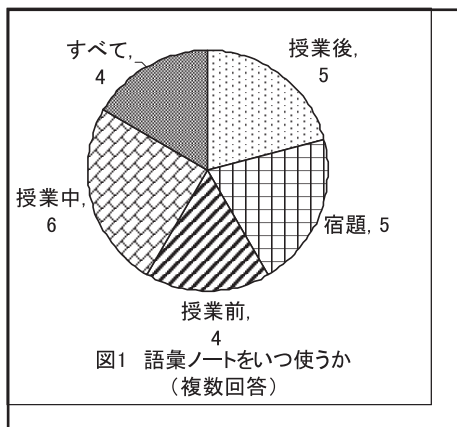
さい、～なければなりません、～ることができます、～たことがあります、～たり～たりしますの各表現で使えるような動詞が載っている課

形容詞：L 12の比較・過去形でL 8、L 19のて形でL 8・12

以前習った語彙を練習で扱うと、語彙も文法も新しい練習をした時に比べ、学生の活動が積極的になる様子が多く観察された。単なるQ A練習にとどまらず、Q Aを会話に発展させ、会話を長く続けているグループが多かったように思われる。

3. 学生へのアンケート

2008 年度後期に初級 I を受講した学生にアンケート調査を行い、10 名から回答が得られた。2006 年度後期、2007 年度前期にも同様のアンケートを行っており、それぞれ 2 名、4 名の回答が得られたので、これらもあわせて 16 名の回答を分析の対象とした。

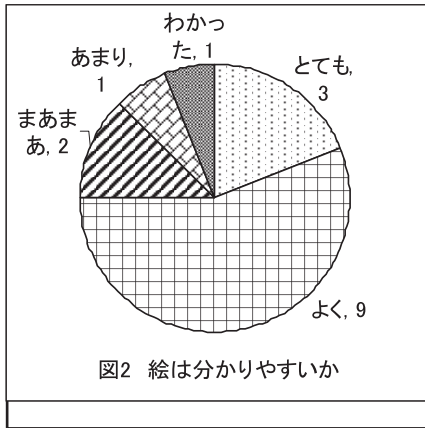


まず、語彙ノートをいつ使うか、という質問に対する答え(図1)であるが、複数回答で、どれも同程度であった。一つしか回答をしていなかったものは授業後が3名、授業前・授業時・宿題時が1名ずつであった。このことから、語彙ノートは授業の後や宿題の時など、主に復習教材として使われていることがうかがえる。

筆者は授業時に使っていたのだ

が、授業時に使ったと答えていない学生もいた。この学生は教員からの指示ではなく、自発的に使った時のみを答えた可能性も考えられる。質問をより具体的にしていれば、単に使用したか否かを答えただけなのか、自発的に使用したか否かを答えたのかが明らかになったと思われる。また、筆者が語彙ノートを導入や練習で使っていたので、少なくとも授業中には使っていると答えるだろうと考え「使わなかった」という項目を設けなかった。しかし、質問の内容を吟味し、それによっては「使わなかった」という項目も入れたほうがよいであろう。

次に、絵の分かりやすさについて聞いたところ、よく分かったという答えが大半を占めた(図2)。選択肢は選ばず、コメント欄に「分かった」とだけ書いていた学生も、「とても」か「よく」に属する、肯定的な答えだ



と考えてよいだろう。このように肯定的な評価が多かったのは、初級前半で扱われる語彙が身近で、絵にしやすいものが多いことも影響しているであろう。概念として理解がしやすいため、絵を見ても容易に理解できたのだと考えられる。ただ、行く・来るなど視点が関係するものや、押す、回すなど動作が複雑なものについては絵だけで理解しにくいと思われるので、そういった語彙について

は語彙ノートでさらに明確な絵を提示することを目指すより、新出語導入時の教員による説明に頼った方がよいと考えている。

三つ目は自由記述で語彙ノートのいいところを自由に書いてもらった。表現に差異はあるが、絵を評価しているものが16中10と大半を占め、他は一名ずつ、日常生活に役立った、おもしろい、理解しやすい、読めた、言葉、自学に役に立ったという記述があった。これは二番目の質問項目で語彙ノートの絵が分かりやすかったと答えた学生が多かったこととも関連しているが、絵の分かりやすさが使いやすさにつながり、授業での活動にも役に立ち、評価されたと言える。

四つ目は語彙ノートの不十分なところについて自由に書いてもらった。意外なことに語彙が少ないという答えが回答数9のうち4と最も多かった。他には文法の説明がない、漢字がない、説明が短い、少し難しい、意味が分かりにくいものがあったという点をあげている学生が一名ずついた。筆者としては、最低限覚えてほしいもの、よく使うと思われるものに絞って載せたのであるが、教科書で学習する語彙をできるだけ多く盛り込んだ方が、満足度が高くなると言える。

五つ目は四つ目と重なる側面もあるが、語彙ノートに入れてほしいことについて自由に書いてもらった。四つ目同様、新出語が回答数13中2、それと同数で文法の説明があげられた。他に、文字の書き方、食べ物に関する情報、動詞を増やす、写真、動詞や形容詞の活用、絵で意味をまとめる、ローマ字、教科書の会話に出てくる表現、教室語彙の希望が一名ずつあった。語

彙だけでなく、何かを入れてほしいという希望が多かったのは意外であったが、語彙ノートだけで授業についていこうという考えがあるとも受け取れない。事実、2008 年度後期には注意したにもかかわらず最後まで教科書を持ってこなかった学生がいた。その学生は毎回出席していたわけではないので、教科書を買ってまで勉強する必要性を感じていなかったのかもしれないが、語彙ノートがあるとその場でなんとか授業活動についてこられるため、余計に必要性を感じなくなった可能性もある。

六つ目は教師の使い方によかったことについて自由に書いてもらったところ、授業時の練習が回答 9 中 4 と最も多く、次いで授業開始時の新出語の確認が 3、自習で使うが 2 であった。他にフォーマットがよい、という答えがあった。新出語は理解するだけであるが、練習では使えるようになったという実感が持てるので、練習での使用の評価が高かったと考えられる。

七つ目は教師の使い方での不満だったことについて自由に書いてもらった。三名からしか回答が得られなかったが、説明されないものがあったが 2、練習が不十分なときもあったが 1 であった。語彙ノートでとりあげているのに授業でとりあげられないことが不満の一つになることがうかがえる。

その他の意見として、四名からしか回答が得られなかったが、丈夫にしてほしい、日常生活で役に立つ短い表現を入れてほしい、20 課の絵をふやしてほしい、といった要望と、役に立ったという感想が一名ずつから寄せられた。毎日の持ち運びに耐えられるよう、破れにくい仕様にすることは検討の余地があると言える。日常生活の表現については、前半に教室用語とともに少し取り上げてあるので、これを使えるものだと分かるような提示方法にすることで学生からの要望に少しは応えられるであろう。20 課は絵にしにくい語彙なので、1 つしか載せていないのであるが、他の課と比べると少なく感じるのかもしれない。提示する語彙の吟味は、20 課も含め、今後も検討していきたい。

4. 語彙ノートの今後

絵による提示は学生にある程度支持されたといえるが、絵による理解が学習を促進するののかについては疑問に感じてきた。その答えの一つが、第二言語の単語学習に有効な方法として考案されているものの一つであるキーワード法^{注1}である。松見他（1998）はロシア語の学習経験を有しない日本人大

学生にロシア語の単語をキーワード法により覚させる実験を行った^{注2}結果、絵画を提示するほうが、文字で意味を提示するより第二言語単語が長く保持されることが明らかになった。この結果を見ると、絵による提示は単語と訳を提示するより効果的であると考えられる。一方で、日本語学習者に語彙学習を WebBT (Web-Based Training) で行った坂井 (2007) の学習者へのアンケートでは、絵が単語を覚えるのに役に立ったという回答が大半であったが、インタビューでは提示された絵が分かりにくいという指摘もあったことから、絵だけの提示に頼る問題もうかがえる。誰が見ても分かりやすい絵というのは難しいであろうが、どんな絵を使ったらより理解しやすく、覚えやすいのかについてさらに考えていくべきであろう。

さらに、語彙の定着を高めるためには、繰り返し使わせる必要がある。相澤 (2006,p.37) も「単語の場合は、四技能で単語を使う機会を最大限に活用して処理水準を高くしつつ、記憶痕跡を深めるような工夫が可能」だと指摘している。筆者が学習課の語彙だけでなく、前の課の語彙を練習として使ってきた経験から考えると、課ごとの提示に加え、名詞、動詞、形容詞だけをまとめて提示する部分を作れば、他の課での練習にも使いやすくなり、繰り返し使えるようになるのではないかと考えている。また、巻末に入れた長崎の語彙に写真を入れ、説明を一文だけではなく、いろいろなレベルの文を入れれば、授業内の練習に取りあげやすくなるだろう。この語彙ノートを課の縛りをとってより自由に使えるように、語彙をまとめたもののみを提示するということも考えられるが、各課の新出語の確認という語彙ノート作成時に意図した役割は残したいので、ページ数は多くなるが、課ごとの提示に加えて他の提示法もするという形にしたいと考えている。

語彙のまとめ方について、谷口・赤堀・任都栗・杉村 (1994) の調査では、日本語初級学習者はエピソードによって語彙を関連付けて覚えていることが明らかになっている。また、橋本・山内 (2008) は日本語学習者が「まとまった話」ができるよう、話題分類に沿った語彙リストを作成している。平田 (2007) は初級レベルの語彙教育について、学習者個人にとって意味のある語彙カテゴリー作りをすること、さらに、そのカテゴリーでストーリーを創造させる等の作業をすることが学習者の認知活動を助ける一手段になるのではないかと提案している。こうした調査結果や指摘を考えると、品詞別のグループ分け以外での提示方法についても、考える余地はあろう。

学生のアンケートでは、語彙を増やしてほしいという希望が多かったが、絵で提示できるものを選んで入れているため、入っていないものは絵ではなく媒介語をつけて提示することになると思われる。媒介語をつけても提示すべき語彙なのかは吟味すべきであろう。また、文法説明を入れるなど、語彙ノートの情報量を増やすのは、筆者一人の考えで作成するというリスクがある上に『新日本語の基礎』に分冊や文法解説書などがあることから慎重に考えていきたい。

また、学生に行ったアンケートについては、自由記述になると回答数が極端に減ってしまったため、できるだけ有効回答数を多くするような質問項目に変える必要がある。具体的には、選択肢が設けられる質問項目には選択肢を設け、その他の部分に自由に記述してもらうという形がいいと考えている。語彙ノートをいつ使うか、という質問項目については、いつ自発的に使っているかを聞く質問に改めたい。

5. おわりに

語彙を覚えるためには、教室内で使うこと、しかも、何度も繰り返し使うことが必要である。さらに、教室外でも使えば、定着がより促進されるであろう。そのためには、語彙ノートの内容の吟味だけではなく、学生を飽きさせることなく語彙を繰り返し使う練習を行うことも必要である。その一助として、長崎大学で提供している WebClass にコースを開設し、語彙練習のコンテンツを作ることを考えている。WebClass のコースがあれば、学生が授業外でも好きなだけ繰り返し語彙の練習ができるからである。しかし、WebClass は長崎大学に在籍する学生を対象としているため、一般コース初級Ⅰを受講している学生のうち、配偶者だけは ID がもらえず、WebClass を使うことができない。また、日本語でコンピュータを使うことに不慣れた学生や日本語でコンピュータを使うことには慣れていても、WebClass には慣れていない学生がいることが考えられるので、初級Ⅰを受講した学生全員に WebClass のオリエンテーションを行う時間を設ける必要がある。考えなければならないことは多いが、導入の方向で検討していきたい。

一般コース初級Ⅰにおける語彙の扱い方、語彙ノートの扱い方などについては、教員間で統一見解をある程度持っていたほうが学生への語彙学習が効果的に行えるのであろうが、これについては担当教員への負担なども考慮し

つつ、考える必要がある。

語彙ノート『新日本語の基礎Ⅰ』から独立させて『新日本語の基礎Ⅰ』の語彙だけを扱うのではなく、初級学習者の語彙学習に役立つような語彙ノートにすることも考えられるが、今西・神崎（2008）が日本教育初級教科書提示語彙を数量的に分析した結果、教科書間で収録語彙に大きなばらつきがあることが分かっており、現段階では一般コース初級Ⅰの学生を対象とした語彙ノートとして改訂を重ねていこうと考えている。

今後も引き続き語彙ノートの改定と語彙ノートの内容や使い方吟味を行い、よりよい語彙教育ができるようにしたい。

注1）たとえば、ドイツ語母語話者が日本語の「掘る」や「彫る」を覚えるときは、まず音韻的に類似したドイツ語の「Holtz（木材）」をキーワードとする。次に「Holtzで土を掘る行動」や「Holtzを彫る風景」をイメージする。この2段階を経ることで、後に「掘る」や「彫る」を見たり聞いたりしたとき、音韻的特徴から「Holtz」が検索され、さらに合成イメージを媒介として「graben（掘る）」や「schnitzen（彫る）」が容易に思い出されることになる。（松見 2002,p.103-104）

注2）実験は21名の学生をランダムに7名ずつのイメージ指示群、絵画提示群、口頭反復群の三群に分けて行った。イメージ指示群ではロシア語単語の聴覚提示と同時にキーワードと意味が3秒間視覚提示され、その後何も書かれていない白色カードが7秒間視覚提示された。被験者は白色カード上にキーワードと意味を結びつけたイメージを思い浮かべながらキーワード法を用いてロシア語単語と意味を覚えるよう指示された。絵画提示群ではロシア語単語の聴覚提示と同時にキーワードと意味が3秒間視覚提示され、その後キーワードと意味を結び付けてイメージ化した絵が7秒間視覚提示された。被験者は絵を見ながらキーワード法を用いてロシア語単語と意味を覚えるよう指示された。口頭反復群ではロシア語単語の聴覚提示と同時にその意味が3秒間視覚提示され、その後何も書かれていない白色カードが7秒間視覚提示された。被験者はロシア語単語と意味を口頭で繰り返しながら覚えるように指示された。10個のロシア語単語を1通り提示した後、ロシア語単語の聴覚提示だけを行い、1単語につき1枚の用紙を使って単

語の意味を筆記再生させた。一週間後に 10 個のロシア語単語を再び聴覚提示し、1 単語につき 1 枚の用紙を使って単語の意味を筆記再生させた。

参考文献

- 今西利之・神埼道太郎 2008 「日本教育初級教科書提示語彙の数量的考察」『熊本大学留学生センター紀要』第 11 号 pp.1-16
- 相澤一美 2006 「語彙習得をどう捉えるか」『月間言語』Vol.35No.4 pp.32-37
- 坂井美恵子 2007 「WebBT による語彙習得プログラムの評価と学習傾向－中間報告－」『大分大学国際教育センター紀要』第 1 号 pp.37-50
- 茅田美有紀 2007 「初級Ⅰクラスにおける語彙ノート作成の経緯と効果」『長崎大学留学生センター紀要』第 15 号 pp.45-52
- 谷口すみ子・赤堀侃司・任都栗新・杉村和枝 1994 「日本語学習者の語彙習得－語彙ネットワークの形成過程－」『日本語教育』84 号 pp.78-91
- 橋本直幸・山内博之 2008 「日本語教育のための語彙リストの作成」『月間言語』Vol.35No.4 pp.50-58
- 平田真美 2007 「語彙習得と記憶」『国際交流センター紀要』創刊号 埼玉大学国際交流センター pp.61-67
- 松見法男・森川邦美・桑原陽子 1998 「第 2 言語の単語記憶におけるキーワード法の有効性」『広島大学教育学部紀要』8 pp.107-113
- 松見法男 2002 「第二言語の語彙を習得する」『日本語教育のための心理学』新曜社 pp.97-110

参考資料：学生へのアンケート用紙

^{よしゅう}予習ノートについてのアンケート Questionnaire about 'YOSHU NOTE'

^{えいご}英語で書いてもいいです。(You can use English if you want to do so.)

①ノートをいつ^み見ましたか。(たくさん○を書かいてもいいです。)

When did you look the review note? (You can choose many items.)

^{じゅぎょう まえ}
授業の前

^{じゅぎょう とき}
授業の時

^{じゅぎょう あと}
授業の後

Before the class

During the class

After the class

^{しゅくだい}

宿題をするとき When you do your homework

^{ほか}

他に others :

②絵はよく^わ分かりましたか。(○を書^かいてください。)

Could you understand the pictures in the note? (You can choose the one.)

とても よく まあまあ あまり ぜんぜん

^{いけん}

意見 opinion :

③ノートの何^{なに}がよかったですか。 What is a good point of the note?

④ノートの何^{なに}がよくなかったですか。 What is a bad point of the note?

⑤ノートに何^{なに}があったらいいですか。

What items do you want in the note?

⑥先生^{せんせい}のノートの使^{つか}い方^{かた}でどんな使^{つか}い方^{かた}がよかったですか。

What is the teachers' good way to use the note?

- ⑦先生のノートの使い方つかでどんな使い方かたがよくなかったですか。

What is the teachers' bad way to use the note?

- ⑧ノートについて意見いけんがあったら書かいてください。

If you have any opinion about the note, please write.

ご協力きょうりょくありがとうございました。

Thank you for cooperation.

(留学生センター講師)